

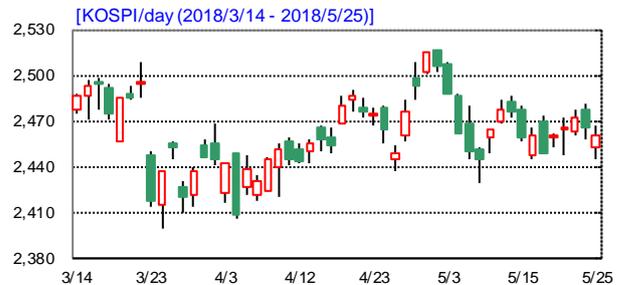


【韓国】 総合指数は週間で0.01%高と小反発、今週は後半に経済指標の発表続く

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.01%高と小反発した。22日が休日のため休場で4日間の取引。週を通じて一進一退の展開となった。前週末にかけての米中協議を受けて週前半は米中摩擦への懸念が後退し、22日の休場を挟んで続伸。米半導体大手エヌビディアへの供給開始が材料視されたSKハイニックスが17年ぶりの高値を付けるなど時価総額の大きい半導体株が買われた。週後半は軟調。米朝首脳会談の中止を受けた朝鮮半島情勢への懸念が再燃し、地合いが悪化した。また、トランプ大統領が自動車関税導入の検討を表明したことで現代自動車などに売りが出た。今週は引き続き朝鮮半島情勢を巡る動向が注目される。週後半には1-3月期のGDPや鉱工業生産、物価統計、貿易統計など主要経済指標が相次いで発表される予定。

▼指数チャート

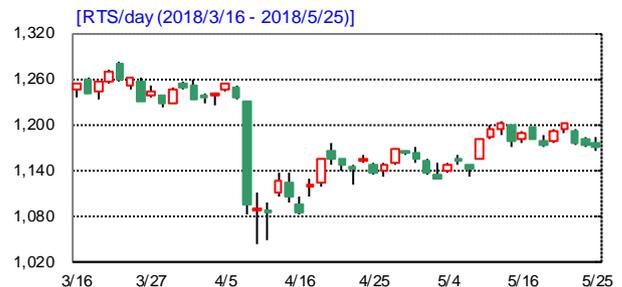


【ロシア】 RTS 指数は週間で0.3%安と続落、今週も原油相場の動向にらむ展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は0.3%安と続落。原油高を好感し、週前半は堅調に推移したが、その後は通貨ルーブルの下落や原油相場の急落が嫌気された。週明け21日は原油高を受けて前週末比1.6%高と上昇してスタート。22日はブレント原油が2014年11月以来となる80ドル台に乗せたことで指数は続伸し、1200ドルを回復した。ただ、その後ルーブルが下落したほか、OPEC協調減産合意の打ち切り観測が強まったことで原油相場が急反落。RTS指数は23日から3日続落し、1169.93ドルで終了した。個別では鉄鋼のTMK PAOが10.1%高と急伸した一方、エネルギーのタトネフチが5.0%安、ルクオイルが4.5%安、金融のクレジット・バンク・オブ・モスクワが4.7%安となった。今週は引き続き原油相場の動向をにらんだ展開か。

▼指数チャート

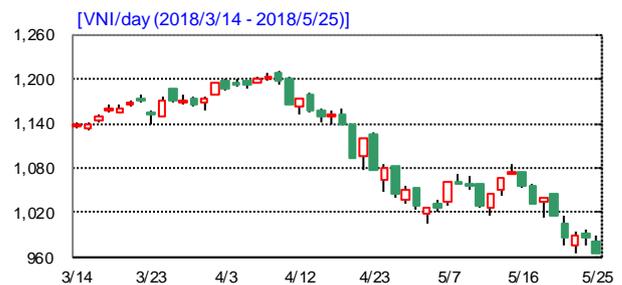


【ベトナム】 VN 指数は週間で7.4%安と大幅続落、今週も資金流出懸念が重しか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は7.4%安と大幅続落。不動産や金融株に海外投資家の利益確定売りが続いたほか、原油安を受けたエネルギー株の下落も響いた。週明け21日は不動産大手ビンググループが約7%下落したほか、保険のパオ・ベト・ホールディングス、エネルギーのペトロベトナム・ガスなどが5-6%下落し、指数は2.5%安。22日も2.9%安と続落し、4カ月半ぶりに1000ポイントを割り込んだ。23日は小幅に反発したが、24-25日に再び続落し、963.90ポイントと週の安値で取引を終えた。年初来で2.1%安とマイナス圏に転落。4月に付けた史上最高値1211.34ポイントからの下落率は20.4%で、「弱気相場」入りとなった。今週は200日移動平均線まで下落したことで反発が期待されるが、原油安や資金流出懸念が引き続き重しとな

▼指数チャート



るか。



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 3.3%高、中銀新総裁の通貨安定化方針を好感

ジャカルタ総合指数は週間で 3.3%高と反発。国内の重要イベントが少ない中、週初を除き堅調に推移した。21日は前週後半から下げ止まらず、3営業日続落してスタート。一方、22日はアストラ・インターナショナルが指数上昇をけん引して反発。24日に金融株が買われて終値で前日比 2.7%上昇すると、25日は前日に中央銀行のワルジヨ新総裁が通貨ルピアの安定に注力する方針を示したことが好感されて、場中に一時、2週間ぶりに 6000 ポイントを回復した。今週も国内の経済指標発表が少なく、中国の 5 月の製造業 PMI など、外部要因が焦点になる。29日はワイサク（ブダの生誕記念日）のため休場。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.7%安、1-3 月期の GDP 成長率は前年同期比 4.8%

SET 指数は週間で 0.7%安と 3 週続落。週初の上昇分をその後の下落で帳消しにした。21日は 1-3 月期の GDP 成長率が前年同期比 4.8%と市場予想の 4.0%を上回った効果で指数は 3 営業日続伸。一方、22日は 4 月の貿易収支が輸入額（通関ベース）の増加を受けて、14 年 9 月以来の大幅赤字に転落したことが嫌気された。24日は OPEC が協調減産を緩和する可能性が報じられた影響で原油価格が値下がりし、エネルギー株が指数下落をけん引したが、25日は 4 日ぶりに反発して取引を終えた。今週は 30 日に 4 月の鉱工業生産、1 日に 5 月の CPI が発表される予定。29日はウィサカブーチャ（仏誕節）のため休場。

▼指数チャート

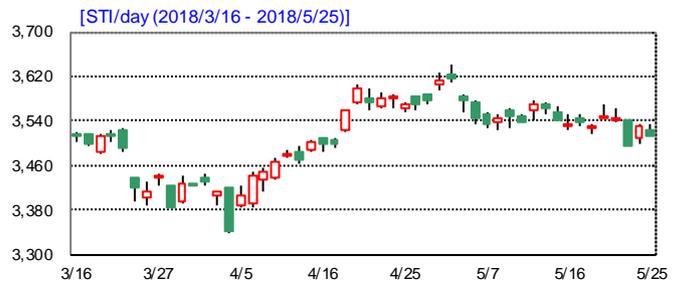


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.5%安、ハイフラックスの債務整理申請で銀行株が下落

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.5%安と続落。週半ばの下落が響いた。21日は前週に開催された米中貿易交渉で、摩擦問題の一時保留が合意されたことを受けて反発。ただ、22日に反落すると、23日は 4 月の CPI 上昇率が市場予想から下振れたことに加え、水処理大手のハイフラックスが債務整理を申請したことによる銀行株の下落で、指数は終値で前日比 1.3%安と約 6 週間ぶりの安値を更新した。24日は 1-3 月期の GDP 確定値が速報値を上回った効果で反発したが、25日は反落して引けた。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因に左右されそうだ。29日はベサックデー（釈迦誕生祭日）のため休場。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 3.1%安、格付け会社の下方修正懸念を嫌気

クアラルンプール総合指数は週間で 3.1%安と 3 週ぶりに反落。外国人投資家による売りが指数を押し下げた。22日は 1-3 月期の決算が 2 桁減益と不調だったテレコム・マレーシアが指数下落をけん引。23日は複数の格付け会社がマレーシアの格付けを下方修正するとの見方が広がり、終値で前日比 2.2%下落した。24日は新政権に対する先行き不透明感からリンギ安が進んだ影響で指数はさらに 1.6%下落し、約 5 カ月ぶりの安値を更新したが、25日は反動で買われ 1.2%高と 5 日ぶりに反発して引けた。今週はナジブ前政権の汚職に対する捜査の動向が焦点になりそうだ。29日は釈迦誕生祭日のため休場。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。